L06c 低速流星に出現した流星痕

比嘉義裕 (ひが企画、日本流星研究会), 原田敦 (ひが企画)

流星痕は、流星の飛跡に出現する発光分子雲である。マイナス４等以上で、かつ高速な流星では、肉眼でも認識できるほどの流星痕が見られることがあるのだが、そのような機会は年間数例程度しかない。一方、多くの流星痕は、出現しても肉眼では確認できないほどの非常に淡い光量であり、高感度設定のデジタルカメラで、ようやくその姿を捉えることができる。おうし座流星群は、対地速度が 27km ／秒程度の低速流星群である。その性質から、流星痕は非常に記録しづらい。今回、デジタルカメラにて、レンズ焦点距離 35mm、絞り F2.8、感度 1600、露出時間 15 秒という条件で、おうし座流星群の流星痕を捉えることに成功した。本発表では、この流星痕を紹介するとともに、これまで記録された流星痕と比較し、今後の観測方法について考察する。